【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【公表番号】特表2008-540641(P2008-540641A)
【公表日】平成20年11月20日(2008.11.20)
【年通号数】公開・登録公報2008-046
【出願番号】特願2008-512232(P2008-512232)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　9/127　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/44　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/24　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　49/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　9/127
Ａ６１Ｋ　47/44
Ａ６１Ｋ　47/24
Ａ６１Ｋ　49/04　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成21年4月10日(2009.4.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
金属元素タングステンと適宜他の金属元素とからなるコアをコーティング層で被覆してなる粒子を含むことを特徴とするリポソーム。
【請求項２】
当該リポソームがリポ多糖類及び／又はリポテイコ酸を含む、請求項１記載のリポソーム。
【請求項３】
当該リポソームの表面が負電荷を帯びている、請求項１又は請求項２記載のリポソーム。
【請求項４】
当該リポソームが負電荷脂質を含む、請求項１乃至請求項３のいずれか１項記載のリポソーム。
【請求項５】
前記負電荷脂質が負電荷リン脂質である、請求項１乃至請求項４のいずれか１項記載のリポソーム。
【請求項６】
当該リポソームが天然脂質を含む、請求項１乃至請求項５のいずれか１項記載のリポソーム。
【請求項７】
当該リポソームの粒径が８５ｎｍ超である、請求項１乃至請求項６のいずれか１項記載のリポソーム。
【請求項８】
当該リポソームの平均直径が１００ｎｍ以上、好ましくは２００～１０００ｎｍである、請求項１乃至請求項７のいずれか１項記載のリポソーム。

【請求項９】
前記粒子の直径が３ｎｍ超、好ましくは３～１００ｎｍ、さらに好ましくは３ｎｍ～２０ｎｍである、請求項１乃至請求項８のいずれか１項記載のリポソーム。
【請求項１０】
前記粒子のコアが、金属タングステン２０～１００重量％、好ましくは金属タングステン５０～１００重量％、さらに好ましくは金属タングステン８５～１００重量％、最も好ましくは金属タングステン９５～１００重量％のタングステン含有量を有する、請求項１乃至請求項９のいずれか１項記載のリポソーム。
【請求項１１】
前記粒子のコアが、金属タングステンと、金属形態のレニウム、イリジウム、ニオブ、タンタル又はモリブデン元素の１種以上とを含む、請求項１乃至請求項１２のいずれか１項記載のリポソーム。
【請求項１２】
前記粒子のコーティングがポリマーコーティング層を含む、請求項１乃至請求項１１のいずれか１項記載のリポソーム。
【請求項１３】
請求項１乃至請求項１２のいずれか１項記載のリポソームを適宜溶剤又は賦形剤と共に含んでなる診断薬。
【請求項１４】
クッパー細胞のインビボイメージング用造影剤としての請求項１乃至請求項１２のいずれか１項記載のリポソームの使用。
【請求項１５】
請求項１乃至請求項１２のいずれか１項記載のリポソームをヒト又は動物の身体に投与し、身体を撮像装置で撮像し、検査データをコンパイルし、適宜データを解析することを含んでなる撮像、特にＸ線撮像方法。
【請求項１６】
押出法、薄膜水和法又は逆相蒸発法を含む、請求項１乃至請求項１２のいずれか１項記載のリポソームの製造方法。